

2017年度 JMRA委員会活動進捗報告

2018年5月

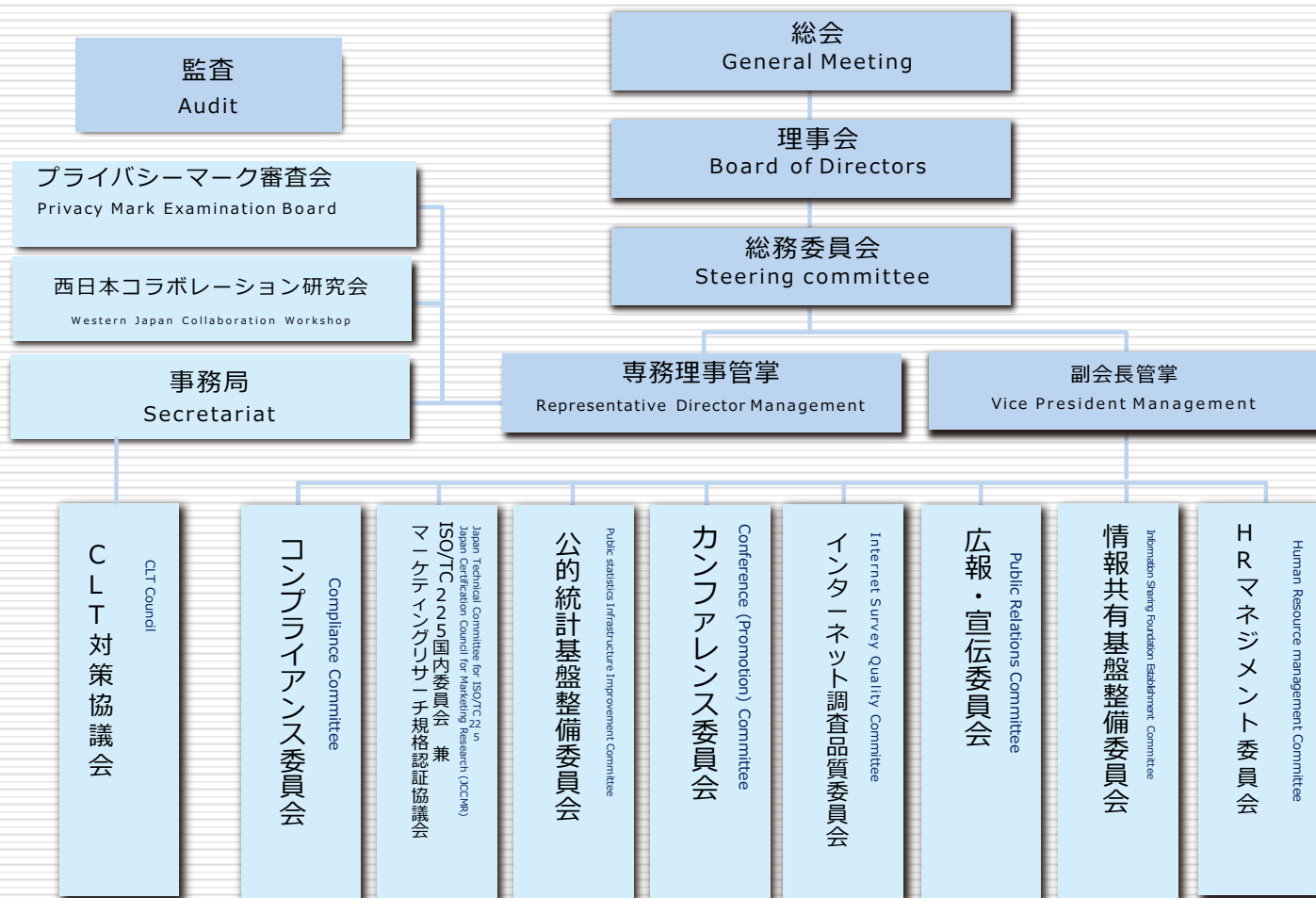
一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会



委員会・研究会・協議会一覧

- ◆ コンプライアンス委員会
- ◆ ISO/TC225国内委員会
兼 マーケティング・リサーチ規格認証協議会
- ◆ 公的統計基盤整備委員会
- ◆ カンファレンス委員会
- ◆ インターネット調査品質委員会
- ◆ 広報・宣伝委員会
- ◆ 情報共有基盤整備委員会
- ◆ HRマネジメント委員会
- ◆ 西日本コラボレーション研究会

組織図



コンプライアンス委員会

村上 智人

2017年度報告と2018年度計画

2017年度報告

- 改訂「マーケティング・リサーチ綱領」を公表（2017年6月）
- 「新綱領の解説と改正個人情報保護法の説明会」を東阪で実施（2017年8月）
- JISQ15001改訂版パブコメ提出（2017年9月）
- 「JMRA個人情報保護ガイドライン」の改訂に着手（2017年12月）
- 「災害時対応マニュアル」の作成（2018年4月）
- 無料法律相談（毎月）、正会員入会審査（0件）

2018年度計画

- 「JMRA個人情報保護ガイドライン」改訂版の発行（2018年7～8月）
- 「新マーケティング・リサーチ綱領解説」の更新
- EU一般データ保護規則（GDPR）への対応資材の作成と告知
- コンプライアンスセミナーの開催（個人情報保護法改正/新JISQ等）
- 『法務ハンドブックⅣ』の作成
- 無料法律相談（毎月）、正会員入会審査

ISO/TC225国内委員会 兼 マーケティング・リサーチ規格認証協議会

村上 智人

2017年度報告と2018年度計画

2017年度報告

- ISO20252の改訂作業に参画し、日本の意見を反映させた
- ISO20252に興味を持つ複数社の相談に対応したが、新たな認証取得には至らず
- 6月に正式発効となったISO19731（デジタル分析/Web解析）の『英和対訳版』『規格解釈のガイドライン』を作成
- 「EU一般データ保護規則（GDPR）セミナー」実施（2017年11月）
- ISO19731に関連してトピックスセミナー「ビッグデータ分析の現状と課題」を開催

2018年度計画

- ISO20252の改訂作業（2018年11月発行目標）
- ISO19731（デジタル分析/Web解析）及び新ISO20252の認証スキーム整備
- ISO20252第三者認証制度の取得推進（ISO認証取得支援センター立上げ）
- TC225、WG1等の国際会議への委員派遣（各国の認証取得状況や各種成功事例などを情報収集）

公的統計基盤整備委員会

大竹 延幸

公的統計基盤整備委員会

- (1)『公的統計市場に関する年次レポート 2017』(報告書)の作成
- (2)関係各府省統計主管部署への表敬訪問
- (3)包括的なリサーチャーカリキュラムに基づく、統計調査士・専門統計調査士受験対策講座や講演会の企画・開催
- (4)「調査インフラ等に関する実態調査」「民間委託に関する府省担当者ヒアリング」の企画・実施
- (5)2017年度民間調査機関を活用した統計調査一覧作成
- (6)「統計調査における民間事業者の活用に係るガイドライン(総務省)」の内容理解と注意事項等の作成、同ガイドライン導入後の仕様書等のチェック

カンファレンス委員会

内海 剛

カンファレンス委員会 2017年度総括 & 2018年度事業計画

2017年度 総括

開催場所：ハイアットリージェンシー東京

開催日時：2017年11月28日（火）

テーマ：**Fusion & Creation 新たな価値の創造**

《参加者》

・706名

⇒ 2016年度：728名（APRC合同開催）、2015年度：548名

《参加者満足度》

・94.7%（2016年度：83.3%、2015年度：76.9%）

Omni-Channel時代の

マーケティング戦略

お客様と時間を共有し、絆を深める

ビックデータからスマートデータへ
の移行と謙虚さの重要性



レイ・ポインター氏



オイシックスドット大地株式会社
執行役員 奥谷 孝司氏



ニール・シーマン氏

2018年度 事業計画

開催場所：ベルサール新宿グランド

開催日時：2018年7月26日（木）

テーマ：**WITH US ともに創る明日**

方針：「これからの人材獲得・確保に向けた業界アピールの場」

ターゲット：学生、クライアント、調査会社

開催形式：2部制（午前は学生向けに特化）

コンテンツ：基調講演、特別講演

学生向けパネルディスカッション、ESOMAR、WiRe

リサーチ会社がリーダーシップをとるって何？

生活者の心を掴むメンタリズム



メンタリストDaiGo氏



Office WaDa代表
（元P&G）
和田 浩子氏

ワクワクするリサーチの魅力
～先輩社員のホンネを聞いてみよう～



立教大学 経営学部教授
佐々木 宏氏

インターネット調査品質委員会

佐々木 徹

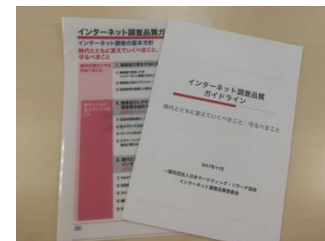
インターネット調査品質委員会

2017年度事業報告

(1) マルチデバイス時代の適正な調査ボリュームに関する研究

PCやスマートフォンでの途中脱落や回答傾向といった実証データに基づきながら、マルチデバイス時代の指針を作成した

- インターネット調査品質ガイドラインの策定/カンファレンスでの発表



(2) ネットリサーチの適正化を目指した啓蒙活動

JMRA機関誌やHP・学会活動を通じて情報発信を行った

- 日本行動計量学会大会 ラウンドテーブル
- NEW MR ウェビナー講演
- Esomarモバイルリサーチガイドラインの翻訳



2018年度事業計画

(1) ガイドラインの啓蒙活動

- 対クライアント スマホデバイスへのシフトなどの事例の収集
- 対モニター モニターの満足度・継続協力意向の把握
- 情報発信の企画 JMA/学会/外部メディア等との連携強化

(2) 調査品質向上のため実証研究

- 調査分割法の実証研究 分割方法の検討、回答品質の比較
- 良い調査票/悪い調査票 質問文の短縮、聞き方改善による効果検証

		Block1 10問	Block2 10問	Block3 10問	Block4 10問	Block5 10問	共通 5問		
統制群	全員	○	○	○	○	○	○	55問	400円 54万円
分割法1									
	10	10	10	10	10	5			
Group1	○	○					○	25問	200円
Group2		○	○				○	25問	200円
Group3			○	○			○	25問	200円
Group4				○	○		○	25問	200円
Group5	○					○	○	25問	200円
								25問	1000円 60万円
分割法2									
	△	△	△	△	△	○		25問	1000円 60万円
完全ランダムに2つのブロック									
合計								2400円	174万円

広報・宣伝委員会

ウェブ・メルマガ分科会

荻野 欣之

ウェブ・メルマガ分科会

Webやメールマガジン等を中心とした情報発信

2017年総括 メルマガ配信開始

- ・ より多くの方にJMRAの活動を知って頂く機会をメールマガジンで創出し、マーケティング業界での理解を深め、結果的に会員、賛助会員増加の一助となる事を目的とする。
- ・ メルマガの配信 2017年11月よりスタート。

2018年活動

- ・ 中期的な方針として、メルマガ対象を正会員 → リサーチユーザー → 学生へと拡大していく。
まずはリサーチユーザーへのプレゼンスを上げ、賛助会員増加へと導くことが第一段階。
- ・ 2017年11月より、月一回配信を開始。
JMRA関連トピックス、セミナー告知・報告、オリジナルコンテンツ拡充、メールからのリンク先としてのJMRAサイト内コンテンツも作成。
- ・ 配信数目標 現在の2400名から4000名まで増加させる

広報・宣伝委員会

トピックスセミナー分科会

末綱 正彦

広報・宣伝委員会 トピックスセミナー分科会

2017年は6件のトピックス
セミナーを企画、運営

■2017年度活動

- ・6月 マーケティング・リサーチャーのための『消費者行動論』
- ・6月 リサーチャーのための「英語」セミナー
- ・7月 課題解決のためのモデル化セミナー速習コース
- ・7月 ベイズ統計学がもたらすリサーチの变革
- ・9月 米大統領選の予測はなぜ外れたか
- ・3月 市場調査におけるビッグデータ分析の現状と課題

2018年度は1～2ヶ月に
1回程度の頻度でセミナー
を開催予定。
メルマガ、Webとも連携し、
セミナーの形式にこだわら
ずに情報発信、問題提起を
行う

■2018年度予定

- ・リサーチャーのためのワークショップデザイン入門
- ・リサーチビジネスの営業方法セミナー
- ・リサーチャーと語らうワールドカフェシリーズ
- ・商品開発のリサーチ活用事例紹介セミナー
- ・アド・テクノロジー系セミナーシリーズ
- ・「“不適切”調査」の検証
- ・「リサーチャーのキャリアを考える」
- ・リサーチ今昔物語～技術進歩で失われたものは何か

広報・宣伝委員会 タグラインプロジェクト

末綱 正彦

広報・宣伝委員会 タグラインプロジェクト

■ 2017年度活動報告



あなたの中に
未来がある。

➤ 活動目的

マーケティングリサーチを取り巻く「生活者/会員/顧客」に向けたメッセージを発信し、業界全体のプレゼンス向上に寄与する

➤ 活動報告

9月：コピーライターやファシリテーターの協力の基、プロジェクトを発足

11月：タグラインが理事会にて承認。カンファレンスにて活用スタート

12月～会員各社にてアンケートお礼ページやメール署名などで掲載開始

2月：日経MJ誌に掲載

■ 2018年度活動計画

- ・引き続き会員各社による利用を促進

- ・カンファレンスでの広報物・グッズの散布、バナー広告の検討 等

情報共有基盤整備委員会

細川 慎一

2017年度報告と2018年度計画 情報共有基盤整備委員会

◆ 活動方針

会員各社がJMRAに入会することで得られるメリットとしての情報基盤を整備し、情報発信と情報交流を活性化させ、JMRAサイトのトラフィックの向上を目指す。

2017年度報告

JMRAサイト改修仕様の企画・作成

仕様に基づいた会員社情報のメンテナンス方法の企画・作成

2018年度計画

JMRAサイトの改修(ローンチ)

会員各社の会員社情報のメンテナンス

JMRAサイトトラフィック向上の施策を展開



HRマネジメント委員会

人材分科会

町田 正一

HRマネジメント委員会

【人材分科会】

＜分科会の目的＞

就職活動をおこなう学生に向けて、

「マーケティングリサーチ業界を知ってもらう」

「仕事の魅力を理解してもらう」

ための活動をおこないリサーチ業界により多くの人材を集める。

○これまでの委員会活動（2017年総括）

今年7月に開催されるJMRAアニュアル・カンファレンスの中で学生向けのコンテンツに就職活動生に対しておこなう集客アプローチの方法を検討した。

学生集客方法は、

- ・大学の学内掲示板へのポスター掲示、学生へのメール通知。ゼミ担当教授にお願いして学生に声掛けをしてもらう。
- ・就活サービス会社のサイト内にバナーを載せてもらい、JMRAのカンファレンスページに誘導をしてもらう。

○これからの委員会活動（2018年予定）

まずは7月のカンファレンスに200名の集客を成功させる。

その結果をもとに次のアクションを決めて実行する。

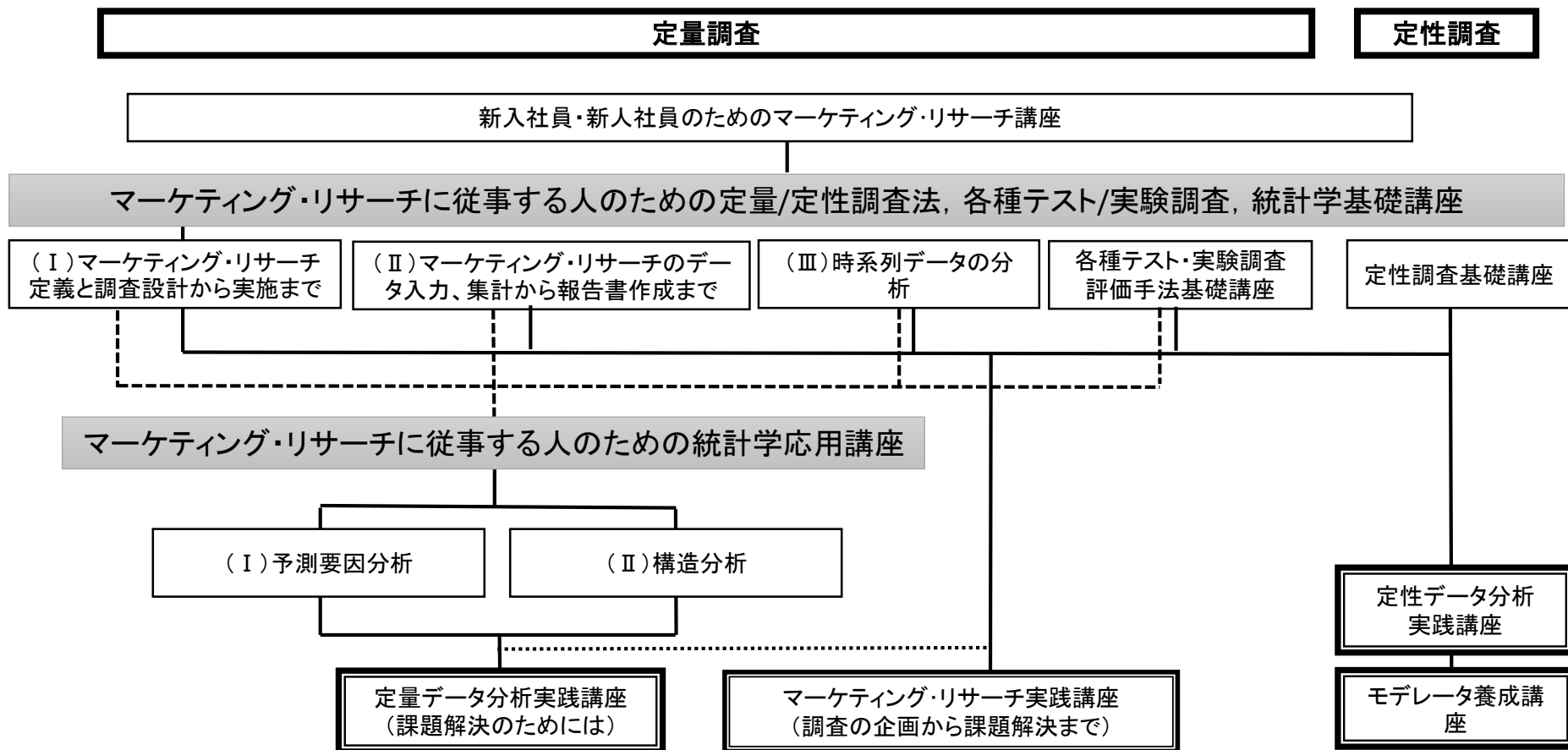
HRマネジメント委員会

教育分科会

大竹 延幸

日本マーケティング・リサーチ協会マーケティング・リサーチャー教育体系図

2018年5月18日作成



HRマネジメント委員会

働き方改革分科会

末綱 正彦

HRマネジメント委員会 働き方改革分科会

■ 2017年度活動報告

➤ 活動目的

国家レベルで働き方改革を進めている環境下において当業界の働き方の改革をJMRAとして取組み、業界ブランドを向上することで、人材流入の加速と流出防止を狙う。

➤ 活動報告

- ・9月：分科会発足
- ・11月：カンファレンスにて取組み開始を発表
- ・2月：日経MJ誌にてJMRAの取組みを掲載
- ・4月：経営実態調査に労務系設問を厚めに設置
- ・5月：JMRAによる働き方改革宣言を公開

■ 2018年度活動計画

- ・会員社による働き方改革事例をJMRAホームページに掲載開始
- ・カンファレンスやメルマガ等を通じてJMRAの取組みを共有してゆく

西日本コラボレーション研究会

川本 聡史

2017年度報告と2018年度計画

(西日本コラボレーション研究会)

(1) 周年イベント【年次大会】の実施

2017: 11月28日開催14社58名 **2018:** 年1回、一堂に会し情報交流

(2) 西日本独自コンテンツセミナーの開催

2017: インナー研修3回実施 **2018:** 年4～5回予定、会員社ニーズの高いテーマを

(3) 東京セミナーの誘致

2017: 6月29日、3月8日2回開催 **2018:** 年3回、トピックスセミナー誘致

(4) 会員社各社によるケーパビリティプレゼンの開催

2017: 7月20日、9月29日、2月22日3回開催 **2018:** 年3回、アライアンス推進を目的

(5) 広報活動メールマガジンの発行

2017: 第6～15回メルマガ発行 **2018:** 毎月1回を予定

(6) 活動班メンバーによる定例会議

2017: 7回開催 **2018:** 2か月に1度各班で運営方針を検討

総 括

内田 俊一